



↑お披露目された耕運機を作業所のメンバーが試運転

★ 地域を支援する「わかば基金」 じゃがいもたくさん掘るぞ

NPO法人長島福祉作業所ぽんぽこ村が第19回地域福祉を支援する「わかば基金」第1部門（支援金）の支援先として決定し、11月6日、贈呈式がありました。

この基金は、社会福祉法人NHK厚生文化事業団が実施しているもので、本年は全国429件の申し込みの中から13団体を支援しています。

同作業所には、障害者の社会参加と就労支援として、耕運機の購入費用70万円が贈られました。

式では、NHKの代表者から同作業所の大堂和枝代表に目録が手渡され、事前に購入された耕運機が披露されました。

耕運機を前にして大堂代表は「活動の範囲が広がります。皆さんから応援していただいていると感じます」と感謝していました。

↓緊張したけど息はぴったり



★ 趣 長島町小・中学校音楽発表会 向凝らした学校続々登場

11月8日、長島町文化ホールで第2回長島町小・中学校音楽発表会がありました。この発表会には、町内の小学校11校と中学校5校の計16校から、児童・生徒約550人が参加し、学校ごとに趣向を凝らした合唱や合奏、斉唱などを披露しました。

午前の部で2番目に登場した幣串小は、全校児童12人で「ソーラン節」を合奏し、「世界がひとつになるまで」を合唱。会場いっぱいに息の合った音色や力強い歌声を響かせていました。

★ 海外を身近に感じる学習 「留学生と協力隊OBが先生」プログラム

留学生と海外青年協力隊OBを招いた特別授業が11月14日、田尻小学校でありました。この授業では、全校児童28人がタンザニア出身のイノセンス ロッサム ムジェマ先生とパラオで活動された経験を持つ金子めぐみ先生の体験記に耳を傾けました。

金子先生は「パラオは一年中熱く、クリスマスも半袖。国の大きさは屋久島くらい」などと地理や歴史などを紹介。児童たちは外国の文化に触れることにより、国際的な視野を深めました。



↑先生の体験談を興味深げに聞く児童たち